

ゴー！ 医見 vol.188 日本を滅ぼす、「勝てば官軍」

今年には明治 150 年ということで各地で記念事業が行われるようです。明治以降の近代の歩みを次世代に遺すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再確認するためだそうです。いかにも長州出身の総理大臣が考えそうなことですが、150 年経った今こそ、明治維新というものを再検証するべきだと思います。

勝てば官軍、負ければ賊軍。我々が学校で学んだのは勝者である官軍が書いた歴史です。そして、卒業後は「竜馬が行く」、「翔ぶが如く」、「坂の上の雲」を読んで知識を深めます。徳川幕府は無能な守旧派、薩長連合は聡明な開明派という司馬遼太郎史観に染まってしまうのです。幕府は決して無能ではなく、小栗上野介を筆頭に頭脳明晰な武士達が世界情勢も分析し、政策を練っていたのです。一方の薩長連合は倒幕一辺倒で、自分たちが政権を取った後のことは何も考えてなかったのです。

長州テロリスト集団

長州藩は尊王攘夷と言いながら、京都御所に発砲し、砲撃も打ち込みました。我が国の歴史上、御所が攻撃された唯一の例です。孝明天皇の暗殺も企てていました。要するに彼らの行ったことはテロそのものなのです。

吉田松陰、高杉晋作。彼らは学校教育では「維新の志士」などと教えていますが、実像は乱暴者の多い長州人の中でも特に過激な若者の一人に過ぎません。ただ、仲間内では知恵の回るころがあって、リーダーを気取っていただけです。長州藩自身も彼にはほとんど手を焼き、最終的には士籍を剥奪、家禄も没収しているのです。

テロリストの多くは会津を「あいづ」と正しく読めなかったのです。それがどこにあるのかも分からないそんな知的レベルの集団だったようです。そういう連中が「攘夷！攘夷！」と叫びながら暗殺を繰り返していたのです。

誇り高き賊軍

長州・薩摩の倒幕戦争というのは、徳川幕府によって維持されていた平穏な社会を転覆させようとした、「反政府運動」であって、明らかな反乱軍、「賊軍」です。一方、孝明天皇の信頼が厚かった会津藩は天皇と幕府を守るために戦った「官軍」です。しかし、薩長連合は幼い

明治天皇を人質にとり、岩倉具視らの策略によって偽勅、つまり嘘の勅命（天皇の命令）を連発し、偽物の錦の御旗を造ったのです。この時代の勅命、錦の御旗の威光は絶大で、将軍徳川慶喜の失策もあり、幕府はあっさり敗北してしまいました。この時点で会津藩は再三和睦を申し入れたのですが、薩長連合は聞く耳を持たず、会津に攻め入ったのです。

最新兵器と豊富な資金力に支えられた薩長連合軍の前に会津は蹂躪されてしまいます。白虎隊の悲劇も生まれました。この時の連合軍兵士たちは残虐極まりない行為を繰り返しました。女性に対する暴行、死体の扱いは極悪非道の極みでした。

安倍政権

安倍総理は高杉晋作を敬愛しているそうです。一国の総理がテロリストを敬愛しているとはお笑い草ですが、知的レベルが高くない、天皇を蔑にする、文書を改竄する、極めつけは偽物の公約を連発して選挙に勝ち、選挙が終わると「勝てば官軍」とばかりにやりたい放題で庶民を苦しめる、長州DNAそのものです。

明治維新、今こそ再検証が必要です。

（参考図書 「明治維新という過ち」原田伊織著、「会津藩斗南へ」星 亮一著）

つばさクリニック院長 石川 亨